

かり どうじ
雁の童子
みやざわ けんじ
宮沢賢治

ひょうき
[表記について]

- 底本に従い、小学校1・2年の学習配当漢字を除く漢字にはルビをつけた。ただし、同一語句についてはルビは初出のみにつけた。
- ルビは「漢字」の形式で処理した。
- [※番号] は、入力者の補注を示す。補注は、ファイルの末尾に置いた。

雁	かり	wild goose
童子	どうじ	boy
宮沢	みやざわ	Miyazawa (p,s)
賢治	けんじ	Kenji (m)
表記	ひょうき	(vs) declare
底本	ていほん	original text
従う	したがう	to follow
小学校	しょうがっこう	primary school
年	ネン	year
学習	がくしゅう	(vs) study
配当	はいとう	share
漢字	かんじ	Chinese characters
除く	のぞく	to except
ルビ		ruby
ただし		however
同一	どういつ	identical
語句	ごく	words
初出	しよしゅつ	first appearance
のみ		(suf) only
形式	けいしき	form
処理	しより	(vs) processing
番号	ばんごう	number
入力	にゅうりよく	(vs) input
者	シャ	person
補	ホ	supplement
注	ちゅう	(vs) annotation
示す	しめす	to denote
ファイル		file
末尾	まつび	end
置く	おく	to place
流沙	るさ	Rusa (loc)

流沙[※1]の南の、楊で囲まれた小さな泉で、私は、いった麦粉を水に
 として、昼の食事をしておりました。

そのとき、一人の巡礼のおじさんが、やっぱり食事のために、そこへ
 やって来ました。私たちはだまって軽く礼をしました。

けれども、半日まるっきり人にも出会わないそんな旅でしたから、私は
 食事がすんでも、すぐに泉とその年老った巡礼とから、別れてしまいたく
 はありませんでした。

私はしばらくその老人の、高い咽喉仏のぎくぎく動くのを、見るともな

南	みなみ	south
楊	やなぎ	willow
囲む	かこむ	to surround
小さい	ちいさい	small
泉	いずみ	spring
私	わたくし	myself
煎る	いる	to roast
麦粉	むぎこ	wheat flour
水	みず	water
昼	ひる	noon
食事	しょくじ	(vs) meal
一人	ひとり	one person
巡礼	じゅんれい	pilgrimage
お爺さん	おじいさん	male senior-citizen
やっぱり		(id) (uk) also
来る	くる	to come
黙る	だまる	to be silent
軽い	かるい	light
礼	れい	bow
けれども		however
半日	はんいち	half day
まるっきり		completely
人	ひと	person
出会う	であう	to come across
旅	たび	(vs) travel
済む	すむ	to finish
すぐに		instantly
年老る	としとる	to age
別れる	わかれる	to part from
しばらく		little while
老人	ろうじん	the aged
高い	たかい	tall
咽喉仏	のどぼとけ	adam's apple
動く	うごく	(vi) to move
見る	みる	to see
なしに		without

しに見ていました。何か話し掛けたいと思いましたが、どうもあんまり向うが寂かなので、私は少しきゅうくつにも思いました。

けれども、ふと私は泉のうしろに、小さな祠のあるのを見付けました。それは大へん小さくて、地理学者や探険家ならばちょっと標本に持って行けそうなものではありましたがまだ全くあたらしく黄いろと赤のペンキさえ塗られていかにも異様に思われ、その前には、粗末ながら一本の幡も立っていました。

私は老人が、もう食事もおわりも終りそうなのを見てたずねました。

「失礼ですがあのお堂はどなたをおまつりしたのですか。」

その老人も、たしかに何か、私に話しかけていたのです。だまって

何か	なにか	something
話し掛ける	はなしかける	to talk (to someone)
思う	おもう	to think
向こう	むこう	the other party
静か	しずか	(an) quiet
きゅうくつ		uneasy
ふと		suddenly
後ろ	うしろ	behind
祠	ほこら	small shrine
見付ける	みつける	to discover
大変	たいへん	very
地理学	ちりがく	geography
探険家	たんけんか	explorer
ちょっと		somewhat
標本	ひょうほん	example
持って行く	もっていく	to take
まだ		yet
全く	まったく	indeed
新しい	あたらしい	new
黄色	きいろ	yellow
赤	あか	red
ペンキ		(nl:) paint (nl: pek)
さえ		even
塗る	ぬる	to paint
如何にも	いかにも	really
異様	いよう	odd
前に	まえに	before
粗末	そまつ	(an) crude
一本	いっぽん	one long thing
幡	はた	flag
立つ	たつ	to stand
終り	おわり	the end
失礼	しつれい	(an) (vs) (id) discourtesy
堂	どう	hall
どなた		(uk) who?
祭	まつり	worship
確かに	たしかに	certainly

二、三度うなずきながら、そのたべものをのみ下して、低く言いました。

「……童子のです。」

「童子ってどう云う方ですか。」

「雁の童子と仰っしゃるのは。」老人は食器をしまい、屈んで泉の水をすくい、きれいに口をそそいでからまた云いました。

「雁の童子と仰っしゃるのは、まるでこの頃あった昔ばなしのようなのです。この地方にこのごろ降りられました天童子だということです。このお堂はこのごろ流沙の向う側にも、あちこち建っております。」

「天のこどもが、降りたのですか。罪があつて天から流されたのですか。」

「さあ、よくわかりませんが、よくこの辺でそう申します。多分そうでございます。」

「いかがでしょう、聞かせて下さいませんか。お急ぎでさえなかつたら。」

度	ど	times (three times, etc.)
頷く	うなずく	(uk) to nod
飲み下す	のみくだす	to swallow
低く	ひくく	(vs) lowering
言う	いう	to say
どう云う	どういう	(uk) what kind of
方	かた	person
仰っしゃる	おっしゃる	(IV) (hon) to say
食器	しょつき	tableware
屈む	かがむ	to lean over
きれい		clean
口	くち	mouth
注ぐ	そそぐ	to pour (into)
まるで		so to speak
この頃	このごろ	recently
昔話	むかしばなし	legend
地方	ちほう	area
降りる	おりる	to descend
向う側	むこうがわ	opposite side
あちこち		here and there
建つ	たつ	to be built
天	てん	heaven
子供	こども	child
罪	つみ	crime
流す	ながす	to float
辺	へん	vicinity
申す	もうす	to say
多分	たぶん	perhaps
聞かせる	きかせる	to tell
下さい	ください	please
急ぎ	いそぎ	urgency

「いいえ、急ぎはいたしません。私の聴^きいただけ^{はなし}お話し^{はなし}いたしましう。
沙車^{さしや} [※2] に、須利耶^{すりや} 圭^{けい} という人がございました。名門^{めいもん}ではございま
したそうですが、おちぶれて奥さまと二人^{ふたり}、ご自分は昔^{じふん}からの写経^{しゃきよう}をなさ
り、奥さまは機^{はた}を織^おって、しずかにくらしてられました。

ある^{あけがた}明方^{あけがた}、須利耶^{すりや}さまが鉄砲^{てつぽう}をもったご自分^{いどこ}の従弟^{いっしょ}のかたとご一緒に、
野原^{のほら}を歩^{ある}いてられました。地面^{じめん}はごく麗^{うる}わしい青^{あお}い石^{いし}で、空^{そら}がぼうつ
と白^{しろ}く見^みえ、雪^{ゆき}もま近^{ちか}でございました。

須利耶^{すりや}さまがお従弟^{まえ}さまに仰^{なぐさ}つしゃるには、お前^{せつしょう}もさような慰^{なぐさ}みの殺^{せつしょう}生^{せつしょう}を、

聴く	きく	to hear
だけ		just
話	はなし	(io) talk
沙車	さしや	Sasha (loc)
須利耶	すりや	Suria (s)
圭	けい	Kei
名門	めいもん	noted family
落ちぶれる	おちぶれる	to come to ruin
奥さん	おくさん	his wife
二人	ふたり	couple
自分	じぶん	oneself
写経	しゃきよう	copying sutras
為さる	なさる	(IV) (hon) to do
機	はた	loom
織る	おる	to weave
静か	しずか	peaceful
暮らす	くらす	to live
明方	あけがた	dawn
鉄砲	てつぽう	gun
従弟	いどこ	cousin (male, younger than the writer)
一緒に	いっしょに	together (with)
野原	のほら	field
歩く	あるく	to walk
地面	じめん	ground
極	ごく	very
麗しい	うるわしい	beautiful
青い	あおい	blue
石	いし	stone
空	そら	sky
ぼうつと		faintly
白い	しろい	white
見え	みえ	appearance
雪	ゆき	snow
間近	まぢか	soon
お前	おまえ	(fam) you (sing)
さよう		(an) such
慰み	なぐさみ	comfort
殺生	せつしょう	killing

もういい加減かげんやめたらどうだと、斯こうでございました。

ところが従弟の方が、まるですげなく、やめられないと、ご返事へんじです。

(お前はいったいずいぶんむごいやつだ、お前の傷めたり殺したりするものが、かな一体どんなものかのかわかっているか、どんなものでもいのちは悲しいものなのだぞ。)と、須利耶さまは重ねておさとしになりました。

(そうかもしれないよ。けれどもそうでないかもしれない。そうだとすればおれはいっそう一層おもしろいのだ、まあそんなくだ下らない話はやめろ、そんなことは昔の坊主ぼうずどもの言うこった、見ろ、向うを雁が行くだろう、おれは仕止めて見せる。)と従弟のかたは鉄砲を構えて、走って見えなくなりました。

須利耶さまは、その大きな黒い雁くろの列れつを、じっと眺めて立ながたれました。

いい加減	いいかげん	right
止める	やめる	to stop
どう		how about
斯	こう	thus
ところが		however
まるで		as though
すげなく		gruff
返事	へんじ	(vs) reply
ずいぶん		extremely
むごい		cruel
やつ		(vulg) fellow
傷める	いためる	to damage
殺す	ころす	to kill
一体	いったい	what on earth?
どんな		what kind of
命	いのち	(mortal) life
悲しい	かなしい	sorrowful
重ねて	かさねて	once more
おさとし		admonition
俺	おれ	I (boastful first-person pronoun)
一層	いっそう	much more
面白い	おもしろい	amusing
下る	くだる	to get down
坊主	ぼうず	Buddhist priest
仕留める	しとめる	to bring down (a bird)
見せる	みせる	to show
構える	かまえる	to set up
走る	はしる	(I) to run
黒い	くろい	black
列	れつ	queue
じっと		steadily
眺める	ながめる	to gaze at
立つ	たつ	to stand

そのとき俄かに向うから、黒い尖った弾丸が昇って、まっ先きの雁の胸を射ました。

雁は二、三べん揺らぎました。見る見るからだに火が燃え出し、世にも悲しく叫びながら、落ちて参ったのでございます。

弾丸がまた昇って次の雁の胸をつらぬきました。それでもどの雁も、遁げはいたしませんでした。

却って泣き叫びながらも、落ちて来る雁に随いました。

第三の弾丸が昇り、

第四の弾丸がまた昇りました。

六疋の弾丸が六疋の雁を傷つけまして、一ばんしまいの小さな一疋だけが、傷つかずに残っていたのでございます。燃え叫ぶ六疋は、悶えながら空を沈み、しまいの一疋は泣いて随い、それでも雁の正しい列は、決して

俄に	にわか	suddenly
尖った	とが	pointed
弾丸	だんがん	bullet
昇る	のぼる	to ascend
真っ先	まっさき	the foremost
胸	むね	breast
射る	いる	to shoot
揺らぐ	ゆらぐ	to tremble
見る見る	みるみる	very fast
体	からだ	body
火	ひ	fire
燃え出す	もえだす	break out in flames
世	よ	world
悲しい	かなしい	sad
叫ぶ	さけぶ	to cry
参る	まいる	(hum) to go
また		again
次	つぎ	next
貫く	つらぬく	to go through
遁げる	にげる	to escape
却って	かえって	rather
泣き叫ぶ	なきさけぶ	to cry and shout
随う	したがう	to follow
第三	だいさん	the third
傷つく	きずつく	to be wounded
一番	いちばん	first
しまい		end
一疋	いっぴき	one (small) animal
残る	のこる	to remain
悶える	もだえる	to be in agony
沈む	しずむ	to sink
泣く	なく	to cry
正しい	ただしい	right
決して	けっして	never

で乱れはいたしません。

そのとき須利耶さまの愕ろきには、いつか雁がみな空を飛ぶ人の形に変わっておりました。

赤い焔に包まれて、歎き叫んで手足をもだえ、落ちて参る五人、それからしまいに只一人、完いものは可愛らしい天の子供でございました。

そして須利耶さまは、たしかにその子供に見覚えがございました。最初のもは、もはや地面に達します。それは白い鬚の老人で、倒れて燃えながら、骨立った両手を合せ、須利耶さまを拝むようにして、切なく叫びますのには、

(須利耶さま、須利耶さま、おねがいでございます。どうか私の孫をお連れ下さいませ。)

もちろん須利耶さまは、馳せ寄って申されました。《いいとも、いいとも、

乱れる	みだれる	to be disordered
愕ろき	おどろき	surprise
いつか		(uk) sometime
皆	みな	all
飛ぶ	とぶ	to fly
形	かたち	form
変わる	かわる	(vi) to change
赤い	あかい	red
焔	ほのお	flame
包む	つつむ	to be engulfed in
歎く	なげく	grief
手足	てあし	one's hands & feet
只	ただ	only
完い	まったい	safe
可愛らしい	かわいらしい	lovely
子供	こども	child
そして		(conj) (uk) and
確かに	たしかに	surely
見覚え	みおぼえ	recognition
最初	さいしょ	(a-no) beginning
もはや		already
達する	たつする	to reach
鬚	ひげ	beard
倒れる	たおれる	(vi) to collapse
骨立つ	ほねだつ	osseous
両手	りょうて	both hands
合せる	あわせる	to fold hands
拝む	おがむ	to beg
切ない	せつない	painful
どうか		somehow
孫	まご	grandchild
お連れ	おつれ	take along
勿論	もちろん	of course

確かにおれが引き取ってやろう。しかし一体お前らは、どうしたのだ。》そのとき次々に雁が地面に落ちて来て燃えました。大人もあれば美しい瓔珞をかけた女子もございました。その女子はまっかな焔に燃えながら、手をおのしまいの子にのぼし、子供は泣いてそのまわりをはせめぐったと申します。雁の老人が重ねて申すには、

(私共は天の眷属 [※3] でございます。罪があつてただいままで雁の形を受けておりました。只今報いを果しました。私共は天に帰ります。ただ私の一人の孫はまだ帰れません。これはあなたとは縁のあるものでございます。どうぞあなたの子にしてお育てを願います。おねがいでございます。) と欺うでございます。

須利耶さまが申されました。

(いいとも。すっかり判った。引き受けた。安心してくれ。)

すると老人は手を擦って地面に頭を垂れたと思うと、もう燃えつきて、

確かに	たしかに	certainly
引き取る	ひきとる	to take charge of
しかし		(uk) however
どうした		What's wrong?
次々	つぎつぎ	one by one
燃える	もえる	to burn
大人	おとな	adult
美しい	うつくしい	beautiful
瓔珞	ようらく	jewelled necklace
女子	おなご	girl
真っ赤	まっか	(an) deep red
手	て	hand
延ばす	のばす	to reach out
周り	まわり	surroundings
共	とも	all
眷属	けんぞく	clan
ただいま		just now
受ける	うける	to undergo
只今	ただいま	right now
報いる	むくいる	to recompense
果す	はたす	complete
帰る	かえる	(I) to go back
縁	えん	destiny
育てる	そだてる	raise
願う	ねがう	request
すっかり		thoroughly
判る	わかる	to understand
引き受ける	ひきうける	to guarantee
安心	あんしん	(vs) relief
擦る	こする	to rub
頭	あたま	head
垂れる	たれる	to lower

影もかたちもございませんでした。須利耶さまも従弟さまも鉄砲をもつたままぼんやりと立っていられましたそうでいったい二人いっしょに夢を見たのかとも思われましたそうですがあとで従弟さまの申されますにはその鉄砲はまだ熱く弾丸は減っておりそのみんなのひざまずいた所の草はたしかに倒れておったそうでございます。

そしてもちろんそこにはその童子が立っていられましたのです。須利耶さまはわれにかえって童子に向って云われました。

(お前は今日からおれの子供だ。もう泣かないでいい。お前の前のお母さんや兄さんたちは、立派な国に昇って行かれた。さあおいで。)

須利耶さまはごじぶんのうちへ戻られました。途中の野原は青い石でしんとして子供は泣きながら随いて参りました。

須利耶さまは奥さまとご相談で、何と名前をつけようか、三、四日お考えでございましたが、そのうち、話はもう沙車全体にひろがり、みんなは子供を雁の童子と呼びましたので、須利耶さまも仕方なくそう呼んでおいでございました。』

影	かげ	shade
形	かたち	form
ぼんやり		(vs) absent-minded
夢を見る	ゆめをみる	to dream
熱い	あつい	hot (thing)
減る	へる	(vi) to decrease (in size or number)
皆	みんな	everyone
跪く	ひざまずく	to kneel
所	ところ	place
草	くさ	grass
我	われ	oneself
帰る	かえる	to go home
今日	きょう	this day
お母さん	おかあさん	(hon) mother
兄さん	にいさん	older brother
立派	りっぱ	(an) splendid
国	くに	country
おいで		to come here (from old Japanese)
戻る	もどる	to return
途中	とちゅう	on the way
しんとして		dead silent
相談	そうだん	discussion
名前	なまえ	name
考え	かんがえ	thinking
その内	そのうち	eventually
全体に	ぜんたいに	generally
広がる	ひろがる	to get around
仕方なく	しかたなく	reluctantly

老人はちよつと息を切りました。私は足もとの小さな苔を見ながら、この怪しい空から落ちて赤い焰につつまれ、かなしく燃えて行く人たちの姿を、はっきりと思ひ浮かべました。老人はしばらく私を見ていましたが、また語りつづけました。

「沙車の春の終りには、野原いちめん楊の花が光って飛びます。遠くの氷の山からは、白い何とも云えず瞳を痛くするような光が、日光の中を這ってまいります。それから果樹がちらちらゆすれ、ひばりはそらですきとおった波をたてます。童子は早くも六つになりました。春のある夕方のこと、須利耶さまは雁から来たお子さまをつれて、町を通過して参られま

息	いき	breath
切る	きる	be through
足	あし	foot
苔	こけ	moss
怪しい	あやしい	dubious
姿	すがた	figure
はっきり		clearly
思ひ浮かぶ	おもいうかぶ	to remind of
語る	かたる	to tell
続ける	つづける	(vt) to continue
春	はる	spring
一面	いちめん	the whole surface
花	はな	flower
光る	ひかる	to shine
遠く	とおく	(a-no) far away
氷	こおり	ice
山	やま	mountain
瞳	ひとみ	pupil (of eye)
痛い	いたい	painful
光	ひかり	light
日光	にっこう	sunlight
中	なか	inside
這う	はう	to crawl
それから		(uk) and then
果樹	かじゆ	fruit tree
ちらちら		fluttering
揺る	ゆする	to swing
告天子	ひばり	skylark
透き通る	すきとおる	to be transparent
波	なみ	wave
早く	はやく	fast
夕方	ゆうがた	evening
町	まち	town
通る	とおる	to pass (by)

した。葡萄^{ぶどう}いろの重い雲^{おもくも}の下^{した}を、影法師^{かげぼうし}の蝙蝠^{こうもり}がひらひらと飛んで過ぎました。

子供^{なが}らが長い棒^{ぼう}に紐^{ひも}をつけて、それを追^おいました。

(雁の童子だ。雁の童子だ。)

子供^すらは棒^てを棄^あて手^わをつなぎ合^{おやこ}って大きな環^{かこ}になり須利耶さま親子^すを囲^{かこ}みました。

須利耶^{むら}さまは笑^{わら}っておい^おいででござ^いいました。

子供^{こえ}らは声^{そろ}を揃^ええていつものよう^はにはや^します。

(雁の子、雁の子雁童子、

空^{じょうだん}から須利耶^{じょうだん}にお^りて来^た。)と斯^ううでござ^います。けれど一人^{ひと}の子^こ供^ごが冗談^{じょうだん}に申^ましますには、

(雁^おのす^てご、雁^おのす^てご、

春^はにな^ってもまだ居^るか。)

みんなはど^っと笑^いましてそれ^からど^う云^うわけ^か小^こさな石^いが一つ^{ひと}飛^んで来^てて童子^この頬^ほを打^つちました。須利耶^すさまは童子^こをかば^ってみんな^に申^ささ

葡萄	ぶどう	grapes
色	いろ	colour
重い	おもい	massive
雲	くも	cloud
下	した	under
影法師	かげぼうし	silhouette
蝙蝠	こうもり	bat
ひらひら		flutter
過ぎる	すぎる	(vi) to pass
長い	ながい	long
棒	ぼう	pole
紐	ひも	string
追う	おう	to chase
棄て手	すてて	extended hands
つなぎ合う	つなぎあう	hold by the hands
環	わ	ring
親子	おやこ	parent and child
囲む	かこむ	to encircle
笑う	わらう	to laugh
声	こえ	voice
揃える	そろえる	uniform
いつも		always
囃す	はやす	to jeer at
冗談	じょうだん	jest
捨て子	すてご	abandoned child
居る	おる	(hum) (uk) to be
どっと		suddenly
一つ	ひとつ	one
頬	ほお	cheek (of face)
打つ	うつ	to hit
庇う	かばう	to protect someone

れますのには、

おまへたちは何をするんだ、この子供は何か悪いことをしたか、冗談にも石を投げるなんていけないぞ。

子供らが叫んでばらばら走って来て童子に詫びたり慰めたりいたしました。或る子は前掛けの衣囊から干した無花果を出して遣ろうといたしました。

童子は初めからお了いまでにごにこ笑っておられました。須利耶さまもお笑いになりみんなを赦して童子を連れて其処をはなれなさいました。

そして浅黄の瑪瑙の、しずかな夕もやの中でいわれました。

(よくお前はさっき泣かなかったな。) その時童子はお父さまにすがりながら、

(お父さんわたしの前のおじいさんはね、からだに弾丸を七つ持っていたよ。) と斯う申されたと伝えます。」

巡礼の老人は私の顔を見ました。

私もじっと老人のうるんだ眼を見あげておりました。老人はまた語りつ

悪い	わるい	bad
投げる	なげる	to throw
ばらばら		disperse
詫びる	わびる	to apologize
慰める	なぐさめる	to console
或る	ある	some...
前掛け	まえかけ	apron
衣囊	かくし	pocket
干す	ほす	to dry
無花果	いちじく	fig
遣る	やる	give
初め	はじめ	beginning
了い	しまい	end
ニコニコ		(vs) smile
笑う	わらう	to smile
許す	ゆるす	to forgive
連れる	つれる	take along
其処	そこ	there
放れる	はなれる	to leave
浅黄	あさぎ	light blue
瑪瑙	めのう	agate
夕	ゆう	evening
さっき		some time ago
時	とき	time
お父さん	おとうさん	(hon) father
縋る	すがる	to cling to
弾丸	たま	bullet
七つ	ななつ	seven
伝える	つたえる	to tell
顔	かお	face (person)
眼	まなこ	eye

づけました。

「また或る晩のこと童子は寝付けないでいつまでも床の上でもがきなさいました。(おっかさんねむられないよう。)と仰っしゃりまする、須利耶の奥さまは立って行って静かに頭を撫でておやりなさいました。童子さまの脳はもうすっかり疲れて、白い網のようになって、ぶるぶるゆれ、その中に赤い大きな三日月が浮かんだり、そのへん一杯にぜんまいの芽のようなものが見えたり、また四角な変に柔らかな白いものが、だんだん拡がって恐ろしい大きな箱になったりするのでございました。母さまはその額が余り熱いといって心配なさいました。須利耶さまは写しかけの経文に、掌を合せて立ちあがられ、それから童子さまを立たせて、

晩	ばん	evening
寝付く	ねつく	to go to bed
いつまでも		indefinitely
床	とこ	bed
上	うえ	(suf) (a-no) above
藻掻く	もがく	to struggle
眠る	ねむる	to sleep
静か	しずか	(an) quiet
撫でる	なでる	to brush gently
脳	のう	brain
すっかり		all
疲れる	つかれる	to get tired
網	あみ	net
ぶるぶる		trembling
揺れる	ゆれる	to sway
三日月	みかづき	new moon
浮かぶ	うかぶ	to rise to surface
一杯	いっぱい	full
薇	ぜんまい	royal fern
芽	め	sprout
見える	みえる	to appear
四角	しかく	square
変に	へんに	strangely
柔らか	やわらか	subdued (colour or light)
だんだん		gradually
拡がる	ひろがる	to spread (out)
恐ろしい	おそろしい	terrible
箱	はこ	box
額	ひたい	forehead
余り	あまり	excess
心配	しんぱい	(vs) worry
写す	うつす	to transcribe
経文	きょうもん	sutras
掌	て	the palm

べにがわ おび むす おもて えき と し
 紅革の帯を結んでやり表へ連れてお出になりました。駅のどの家もう戸を閉め
 てしまって、一面の星の下に、棟々が黒く列びました。その時童子はふと
 水の流れる音を聞かれました。そしてしばらく考えてから、

(お父さん、水は夜でも流れるのですか。)とお尋ねです。須利耶さま
 は沙漠の向うから昇って来た大きな青い星を眺めながらお答えなされます。

(水は夜でも流れるよ。水は夜でも昼でも、平らな所でさえなかったら、
 いつまでもいつまでも流れるのだ。)

童子の脳は急にすっかり静まって、そして今度は早く母さまの処にお帰
 りなりとうなります。

(お父さん。もう帰ろうよ。)と申されながら須利耶さまの袂を引っ張り
 なさいます。お二人は家に入り、母さまが迎えなされて戸の環を嵌めてお
 られますうちに、童子はいつかご自分の床に登って、着換えもせずにぐっ

紅革	べにがわ	crimson leather
帯	おび	obi (kimono sash)
結ぶ	むすぶ	to tie
表	おもて	outside
駅	えき	station
戸	と	door (Japanese style)
閉める	しめる	(vt) to close
星	ほし	star
棟々	むねむね	roofs
列ぶ	ならぶ	to stand in line
流れる	ながれる	to stream
音	おと	sound
考える	かんがえる	to consider
夜	よる	evening
尋ねる	たずねる	to ask
沙漠	さばく	desert
眺める	ながめる	to gaze at
答える	こたえる	to answer
平ら	たいら	level
急	きゆう	sudden
すっかり		completely
静まる	しずまる	to calm down
今度	こんど	now
所	ところ	place
袂	たもと	sleeve
引っ張る	ひっぱる	to pull
入る	はいる	to enter
迎える	むかえる	to go out to meet
環	カン	link
嵌める	はめる	go into
登る	のぼる	to climb
着換える	きかえる	to change clothes
せずに		without (doing)
ぐっすり		sound asleep

すり眠ねむってしまわれました。

また次のようなことも申します。

ある日須利耶ひさまは童子しょくたくと食卓すわにお座りなさいました。食品しょくひんの中に、蜜みつで煮た二つの鮒ふながございました。須利耶の奥さまは、一つを須利耶さまの前に置かれ、一つを童子あたにお与えなされました。

(喰たべたくないよおっかさん。)童子が申はしされました。(おいしいのだよ。どれ、箸かをお貸し。)

須利耶の奥さまは童子の箸さかなをとって、魚を小さく砕くだきながら、(さあおあがり、おいしいよ。)と勧められます。童子は母さまの魚を砕く間、じっとその横顔よこがおを見ていられたましたが、俄かに胸ぐあいが変な工合せまに迫きってきて気の毒どくなような悲しいような何とも堪たまらなくなりました。くるっと立たって鉄砲玉てっぽうだまのように外そとへ走でって出しられました。そしてまっ白しろな雲いっばいの一杯みに充みちた空に向むって、大きな声で泣なき出でしました。まあどうしたのでしょうか、と須利耶の奥さまが愕おどろろかれます。どうしたのだらう行いってみろ、と須利耶さま

眠る	ねむる	to sleep
日	ひ	day
食卓	しょくたく	dining table
座る	すわる	to sit
食品	しょくひん	commodity
蜜	みつ	honey
煮る	にる	to cook
二つ	ふたつ	two
鮒	ふな	crucian carp
与える	あたえる	to give
食べる	たべる	to eat
美味しい	おいしい	delicious
箸	はし	chopsticks
貸す	かす	to lend
魚	さかな	fish
砕く	くだく	(vt) to break
勧める	すすめる	to advise
間	あいだ	interval
じっと		quietly
横顔	よこがお	face in profile
工合	ぐあい	condition
迫る	せまる	to press
気	き	spirit
毒	どく	poison
堪らない	たまらない	unbearable
鉄砲玉	てっぽうだま	bullet
外	そと	outside
出る	でる	to leave
真っ白	まっしろ	pure white
一杯	いっばい	a lot of
充ちる	みちる	(oK) to be full

も気づかわれます。そこで須利耶の奥さまは戸口にお立ちになりましたら童子はもう泣きやんで笑っていられたとそんなことも申し伝えます。

またある時、須利耶さまは童子をつれて、馬市の中を通られましたら、一疋の仔馬が乳を呑んでおったと申します。黒い粗布を着た馬商人が来て、仔馬を引きはなしもう一疋の仔馬に結びつけ、そして黙ってそれを引いて行こうと致します。母親の馬はびっくりして高く鳴きました。なれども仔馬はぐんぐん連れて行かれます。向うの角を曲ろうとして、仔馬は急いで後肢を一方あげて、腹の蠅を叩きました。

童子は母馬の茶いろな瞳を、ちらっと横眼で見られましたが、俄かに須利耶さまにすがりついて泣き出されました。けれども須利耶さまはお叱りなさいませんでした。ご自分の袖で童子の頭をつつむようにして、馬市を通りすぎてから河岸の青い草の上に童子を座らせて杏の実を出しておや

気づく	きづく	to become aware of
戸口	とぐち	door
馬市	うまいち	horse market
仔馬	こうま	foal
乳	ちち	milk
呑む	のむ	drink
粗布	あらぬの	blemish cloth
着る	きる	to wear
馬商人	うましょうにん	horse merchant
結び付く	むすびつく	to join together
黙る	だまる	to be silent
引く	ひく	to pull
致す	いたす	(hum) to do
母親	ははおや	mother
びっくり		be frightened
鳴く	なく	to make sound (animal)
ぐんぐん		steadily
角	かど	corner
曲がる	まがる	to turn
後肢	あとあし	hind legs
一方	いっぽう	in turn
腹	はら	belly
蠅	はえ	fly
叩く	たたく	to clap
茶色	ちゃいろ	light brown
ちらっと		at a glance
横眼	よこめ	sidelong glance
叱る	しかる	to scold
袖	そで	sleeve
包む	つつむ	to conceal
通り過ぎる	とおりすぎ	to pass through
河岸	かわぎし	riverside
座る	すわる	to sit
杏	あんず	apricot
実	み	fruit

りになりながら、しずかにおたずねなさいました。

(お前はさっきどうして泣いたの。)

(だってお父さん。みんなが仔馬をむりに連れて行くんだもの。)

(馬は仕方ない。もう大きくなったからこれから独りで働らくんだ。)

(あの馬はまだ乳を呑んでいたよ。)

(それはそばに置いてはいつまでも甘えるから仕方ない。)

(だってお父さん。みんながあのお母さんの馬にも子供の馬にもあとで荷物を一杯つけてひどい山を連れて行くんだ。それから食べ物がないとなると殺して食べてしまうんだろ。)

須利耶さまは何気ないふうで、そんな成人のようなことを云うもんじゃないとは仰っしゃいましたが、本統は少しその天の子供が恐ろしくもお思いでしたと、まあそう申し伝えます。

須利耶さまは童子を十二のとき、少し離れた首都のある外道 [※4] の塾にお入れなさいました。

童子の母さまは、一生けん命機を織って、塾料や小遣いやらを拵らえてお送りなさいました。

むり		overdoing
仕方ない	しかたがない	it's inevitable
独り	ひとり	alone
働く	はたらく	to work
まだ		still
甘える	あまえる	to fawn on
荷物	にもつ	luggage
ひどい		cruel
食べ物	たべもの	food
殺す	ころす	to kill
食べる	たべる	to eat
何気ない	なにげない	casual
風	ふう	way
成人	おとな	adult
本統	ほんとう	truth
恐ろしい	おそろしい	terrible
離れる	はなれる	to be separated from
首都	しゅと	capital city
外道	げどう	heretical doctrine
塾	じゅく	coaching school
入る	いる	to enroll
一生懸命	いっしょうけんめい	very hard
塾料	じゅくりょう	school fee
小遣	こづか	allowance
拵える	こしらえる	to make
送る	おく	to send
冬	ふゆ	winter

冬が近くて、天山 [※5] はもうまっ白になり、桑の葉が黄いろに枯れてカサカサ落ちました頃、ある日のこと、童子が俄かに帰っておいでです。母さまが窓から目敏く見付けて出て行かれました。

須利耶さまは知らないふりで写経を続けておいてです。

(まあお前は今ごろどうしたのです。)

(私、もうお母さんと一緒に働らこうと思います。勉強している暇はないんです。)

母さまは、須利耶さまのほうに気兼ねしながら申されました。

(お前はまたそんなおとなのようなことを云って、仕方ないではありませんか。早く帰って勉強して、立派になって、みんなの為にならないとなりません。)

(だっておっかさん。おっかさんの手はそんなにガサガサしているでしょう。それなのに私の手はこんななんでしょう。)

(そんなことをお前が云わなくてもいいのです。誰でも年を老れば手は荒れます。そんなことより、早く帰って勉強をなさい。お前の立派になることばかり私には楽しみなんだから。お父さんがお聞きになると叱られますよ。ね。さあ、おいで。) と斯う申されます。

童子はしょんぼり庭から出られました。それでも、また立ち停ってしまう

近く	ちかく	near
天山	てんざん	Tenzan (loc)
桑	くわ	mulberry (tree)
葉	は	leaf
枯れる	かれる	to die (plant)
カサカサ		rustle
窓	まど	window
目敏く	めざとく	watchful
見付ける	みつける	to discover
知らない	知らない	strange
続ける	つづける	(vt) to continue
今ごろ	いまごろ	about this time
勉強	べんきょう	(vs) study
暇	ひま	(an) free time
気兼ね	きがね	(vs) hesitance
為	ため	for
がさがさ		rustling
誰でも	だれでも	anyone
老ける	ふける	to age
荒れる	あれる	to be rough
ばかり		only
楽しみ	たのしみ	pleasure
叱る	しかる	to scold
しょんぼり		(vs) being downhearted
庭	にわ	garden
停まる	とまる	to stop

われましたので、母さまも出て行かれてもっと向うまでお連れになりました。そこは沼地ぬまちでございました。母さまは戻ろうもどとしてまた（さあ、おいで早く。）と仰っしあしゃったのでしたが童子はやっぱり停まったまま、家の方をぼんやり見ておられますので、母さまも仕方なくまた振り返かえって、蘆あしを一本抜ぬいて小さな笛ふえをつくり、それをお持たせになりました。

童子はやっと歩き出されました。そして、遥はるかに冷つめたい縞しまをつくる雲のこちらに、蘆あしがそよいで、やがて童子の姿が、小さく小さくなってしまわれました。俄にわかに空を羽音はおとがして、雁の一行いちれつが通りました時、須利耶さまは窓からそれを見て、思おもわずどきおもつとなされました。

そうして冬に入りましたのでございます。その厳きびしい冬が過ぎますと、まず楊の芽おとなが温和しく光り、沙漠さとうみずには砂糖水かぜろうのような陽炎はいかいが徘徊はいかいいたします。杏さやすもの白ついでい花こたちが咲さき、次さおでは木立も草地もまっ青さおになり、もはや玉髓ぎょくずいの雲みねの峯しほうが、四方めぐの空を繞る頃となりました。

沼地	ぬまち	marsh land
戻る	もどる	to return
振り返る	ふりかえる	to look back
蘆	あし	reed
抜く	ぬく	to draw out
笛	ふえ	flute
作る	つくる	to make
やっと		at last
遥かに	はるかに	in the distance
冷たい	つめたい	cold (to the touch)
縞	しま	stripe
こちら		this direction
馳て	やがて	soon
俄に	にわか	suddenly
羽音	はおと	buzz
一行	いちれつ	a row
思わず	おもわず	spontaneous
どきつと		(vs) feeling a shock
そして		(conj) and
厳しい	きびしい	intense (cold)
温和しく	おとなしく	mild
砂糖水	さとうみず	sugar water
陽炎	かぜろう	heat haze
徘徊	はいかい	wandering about
李	すもも	(Japanese) plum
咲く	さく	to bloom
次いで	ついで	subsequently
木立	こたち	grove of trees
真っ青	まっさお	deep green
もはや		now
峯	みね	summit
四方	しほう	every direction
繞る	めぐる	surround

ちようどそのころ沙車の町はずれの砂すなの中から、古い沙車大寺ふる だいじのあとが掘り出されたとのことでございました。一つの壁かべがまだそのままで見附みつけられ、そこには三人さんにんの天童子てんどうじが描かれ、ことにその一人はまるで生きたようだとみんなが評判ひょうばんしましたそうです。或るよく晴れた日、須利耶すりやさまは都みやこに出られ、童子しょうの師匠ししょうを訪ねて色々いろいろのの粗布みまきを贈り、それから半日ざつとう、童子しょうを連れて歩きたいと申されました。

お二人は雑沓ざつとうの通りを過ぎて行かれました。

須利耶すりやさまが歩きながら、何気なく云われますには、

(どうだ、今日の空の碧あおいことは、お前まへがたの年としは、丁度ちやうど今あのそらへ飛びあがろうとして羽はねをばたばた云わせているようなものだ。)

童子しょうが大へんに沈しずんで答こたえられました。

(お父さん。私はお父さんとはなれてどこへも行きたくありません。)

須利耶すりやさまはお笑いになりました。

(勿論もちろんだ。この人の大きな旅では、自分だけひとり遠い光との空へ飛び去さることはいけないのだ。)

(いいえ、お父さん。私はどこへも行きたくありません。そして誰もど

ずれ		slippage
砂	すな	sand
古い	ふるい	old (not person)
大寺	だいじ	Temple
掘り出す	ほりだす	to dig out
壁	かべ	wall
見附る	みつける	to locate
三人	さんにん	three people
描く	えがく	to paint
まるで		as if
生きる	いきる	to exist
評判	ひょうばん	(a-no) fame
晴れる	はれる	to be sunny
都	みやこ	capital
師匠	ししょう	teacher
訪ねる	たずねる	to visit
色々	いろいろ	(an) various
述べる	のべる	to express
贈る	おくる	to give to
雑沓	ざつとう	congestion
蒼い	あおい	blue
丁度	ちやうど	just
羽	はね	feather
バタバタ		(vs) clattering noise
沈む	しずむ	to feel depressed
答える	こたえる	to answer
勿論	もちろん	of course
飛び去る	とびさる	to flee away

こへも行かないでいいのでしょうか。)とこう云う不思議なお尋ねでござ
います。

(誰もどこへも行かないでいいかってどう云うことだ。)

(誰もね、ひとりで離れてどこへも行かないでいいのでしょうか。)

(うん。それは行かないでいいだろう。)と須利耶さまは何の気もなく
ぼんやりと斯うお答えでした。

そしてお二人は町の広場を通り抜けて、だんだん郊外に来られました。
沙がずうっとひろがっておりました。その砂が一とほろ深く掘られて、
沢山の人がその中に立ってございました。お二人も下りて行かれたので
す。そこに古い一つの壁がありました。色はあせてはいましたが、三人の
天の童子たちがかいてございました。須利耶さまは思わずどきとなりま
した。何か大きい重いものが、遠くの空からぱったりかぶさったように思
われましたのです。それでも何気なく申されますには、

(なるほど立派なもんだ。あまりよく出来てなんだか怖いようだ。この
天童はどこかお前に肖ているよ。)

須利耶さまは童子をふりかえりました。そしたら童子はなんだかわらっ
たまま、倒れかかっていたられました。須利耶さまは愕ろいて急いで抱き留め

不思議	ふしぎ	(an) wonder
離れる	はなれる	to be separated from
広場	ひろば	plaza
通り抜ける	とおりにぬける	to cut through
段々	だんだん	gradually
郊外	こうがい	suburb
沙	すな	sand
深い	ふかい	deep
掘る	ほる	to dig
沢山	たくさん	many
色	いろ	colour
褪せる	あせる	to fade
重い	おもい	heavy
ぱったり		suddenly
被る	かぶる	cover
なるほど		(id) I see
出来る	できる	to be able to
怖い	こわい	frightening
どこか		in some respects
似る	にる	to resemble
振り返る	ふりかえる	to look back
なんだか		somehow
倒れる	たおれる	to fall
急いで	いそいで	hurriedly
抱き留める	だきとめる	to catch in one's arms

られました。童子はお父さんの腕うでの中で夢ゆめのようにつぶやかれました。

(おじいさんがお迎えむかいをよこしたのです。)

須利耶さまは急いで叫なばれました。

(お前かすどうしたのだ。どこへも行いってはいけないよ。)

童子が微かすかに云いわれました。

(お父さん。お許ゆるし下さい。私はあなたの子です。この壁は前にお父さんが書いたのです。そのとき私は王おうの……だったのですがこの絵えができてから王さまは殺されわたくしどもはいっしょしゅっけに出家したのですが敵王てきおうがきて寺を焼くとき二日ほど俗服ぞくふくを着てかくれているうちわたくしは恋人こいびとがあつてこのまま出家にかえるのをやめようかと思ったのです。)

人々ひとびとがあつまって口々に叫なびました。

(雁の童子だ。雁の童子だ。)

童子はも一度いちど、少し唇くちびるをうごかして、何かつぶやいたようでございましたが、須利耶さまはもうそれをお聞きとりなさらなかったと申します。

私の知しっておりますのはただこれだけでございます。」

老人はもう行いかなければならないようでした。私はほんとうなごに名残なごり

腕	うで	arm
夢	ゆめ	dream
呟く	つぶやく	to mutter
迎える	むかえる	to go out to meet
微か	かすか	(an) faint
許し	ゆるし	pardon
書く	かく	to write
王	おう	king
絵	え	picture
出家	しゅっけ	entering the priesthood
敵王	てきおう	enemy king
寺	てら	temple
焼く	やく	to burn
二日	ふつか	two days
俗服	ぞくふく	vulgar clothes
着る	きる	to wear
恋人	こいびと	lover
人々	ひとびと	people
集まる	あつまる	to assemble
口々に	くちぐちに	unanimously
一度	いちど	once
唇	くちびる	lips
動かす	うごかす	(vt) to move
ただ		mere
だけ		(uk) only
本当に	ほんとうに	truly
名残惜しい	なごりおしい	regret

お惜しく思い、まっすぐに立って合掌して申しました。

「尊いお物語をありがとうございました。まことにお互い、ちょっと沙漠のへりの泉で、お眼にかかって、ただ一時を、一緒に過ごただけではございますが、これもありそめのことではないと存じます。ほんの通りがかりの二人の旅人とは見えますが、実はお互がどんなものかもよくわからないのでございます。いずれはもろともに、善逝〔※6〕の示された光の道を進み、かの無上菩提〔※7〕に至ることでございます。それではお別れいたします。さようなら。」

老人は、黙って礼を返しました。何か云いたいようでしたが黙って俄かに向うを向き、今まで私の来た方の荒地にとぼとぼ歩き出しました。私もまた、丁度その反対の方の、さびしい石原を合掌したまま進みました。

●入力者注

※1 流沙=中国のタクラマカン砂漠を指す。

まっすぐ		upright
合掌	がっしょう	(vs) pressing one's hands together in prayer
尊い	とうとい	precious
物語	ものがたり	tale
まことに		really
互い	たがい	mutual
縁	へり	border
一時	ひととき	short time
かりそめ		trifle
存じる	ぞんじる	(hum) to know
ほんの		just
通りかかる	とおりがかる	to happen to pass by
旅人	たびびと	traveller
孰	いずれ	where
示す	しめす	to indicate
道	みち	road
進む	すすむ	to advance
至る	いたる	to come
別れ	わかれ	farewell
さようなら		(uk) good-bye
返す	かえす	(vt) to return something
荒地	あれち	fallow (land)
とぼとぼ		trudgingly
反対	はんたい	opposition
寂しい	さびしい	desolate
石原	いさ	stone field
中国	ちゅうごく	China
砂漠	さばく	desert
指す	さす	to point

- ※2 沙車=タクラマカン砂漠にあったといわれる古代の都市。
 ※3 眷属=一族の意味。
 ※4 外道=他教の信者の意味。仏教徒が他教の信者を指す際に使う。
 ※5 天山=中国・キルギスタンの国境近くにある山脈を指す。
 ※6 善逝=梵語で、悟りに到達した者の意味。
 ※7 無上菩提=無上はこの上ない、菩提は悟りのこと。

底本：「インドラの網」角川文庫、角川書店
 1996（平成8）年6月20日再版
 底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房
 1995（平成7）年5月発行
 入力：浜野智
 校正：浜野智
 1999年7月26日公開

古代	こだい	ancient times
都市	とし	town
一族	いちぞく	a family
意味	いみ	(vs) meaning
他	ほか	other
教	おさむ	Osamu (g)
信者	しんじゃ	believer
仏教徒	ぶつきょうと	Buddhists
際に	さいに	in case of
使う	つかう	to use
国境	くにざかい	boundary (nation, state, etc.)
山脈	さんみやく	mountain range
梵語	ぼんご	Sanskrit
悟り	さとり	Buddhist enlightenment
到達	とうたつ	(vs) reaching
上る	のぼる	to rise
角川	かどがわ	Kadogawa (s)
文庫	ぶんこ	library
書店	しょてん	bookshop
平成	へいせい	Heisei (reign of Emperor)
再版	さいはん	reprint(ing)
親	おや	parents
新	しん	(pref) new
校	こう	(suf) -school
全集	ぜんしゅう	complete works
筑摩	つかま	Tsukama (loc)
書房	しょぼう	library
発行	はっこう	issue (publications)
校正	こうせい	(vs) proofreading
公開	こうかい	(vs) presenting to the public

1999年8月26日^{しゅうせい}修正
あおぞら 青空^{さくせい}文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの^{としょかん}図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>)
つく で作られました。入力、^{せいさく}校正、制作にあたったのは、^{みんな}ボランティアの皆さんです。

Additional readings and English translations added by Michael Koch (tensberg@gmx.net). All errors are probably mine.

修正	しゅうせい	(vs) amendment
青空	あおぞら	blue sky
作成	さくせい	producing
インターネット		the Internet
図書館	としょかん	library
作る	つくる	to make
制作	せいさく	(vs) work (film, book)
ボランティア		volunteer
皆	みんな	everybody